

回覧

## 元気なコミュニティだより

二宮町百合が丘 2-29-6(2丁目会館) 090-5211-6891 <https://gen-comi.jp>

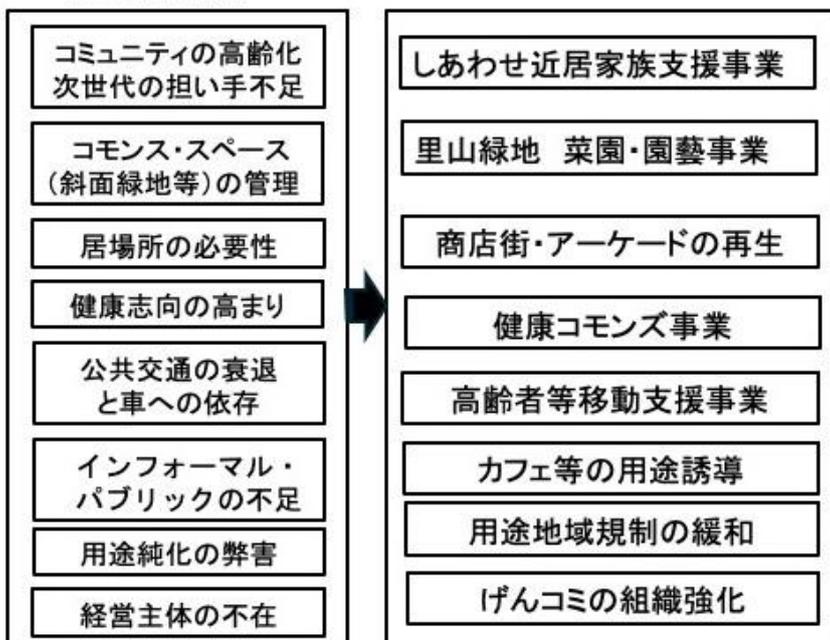
## 百合・緑が丘の再生まとまる

## 国交省調査、健康、移動支援など 8 提案も

ゲンコミが国土交通省の R6 年度事業を利用して、専門家に作成を委託していた百合が丘・緑が丘地区の維持・再生に向けた事業報告がまとめ、22 日(土)に住民説明会を行った。報告は大規模開発から約半世を経たこの地域の課題を整理し・分析のうえで、将来に向けた活力の保持・発展に必要な施策を提起している。全 100 頁に及ぶ力作。3 月 25 日(火)には、この報告をベースにした住民討論会を開く。

(主要な課題)

(重点施策・重点事業)



説明会は、報告書の要約を使って実施した。作成者はこの地区の動向に詳しい薮健夫氏(元県住宅供給公社専務理事)と原大祐氏(Co.Lab 代表)。報告書は国交省に提出するとともに、ゲンコミのホームページに掲載し、誰もが閲覧できるようにする。同時に、報告書の提案に盛り込まれ、ゲンコミの内部検討で見通しがつきつつあるテーマについては、来月の住民討論会の様子を見ながら、R7 年度の事業計画に盛り込む。

だより 38 号ではスペース上の制約から、報告で提起された 8 施策のうち、主なものを掲載する。

報告書の要約及び全文は、[ゲンコミホームページ https://gen-comi.jp](https://gen-comi.jp) で。

## 重点施策・重点事業提案

## 『提案1』 しあわせ近居家族支援事業

・幸せな居住形態である近居家族の支援は二宮町にとって重要なまちづくりである。同居・近居に対する自治体の支援事業は移住促進の立場からも復活・推進すべきである。

・UR や東京都住宅供給公社、積水ハウスも近居支援をしており、住宅供給主体に協力を要請してはどうだろうか。

## 『提案2』 里山緑地 菜園・園藝事業

・コモンスペースの維持管理は、この地区及び団地の将来の持続可能性に関わる。**裏面へ続く**

## 生涯学習・100回記念講座2月

ゲンコミが国土交通省から受託した「住宅団地再生に向けた調査事業」(R6 年度)の報告説明会

健康寿命を伸ばす4つの要素は、食事、睡眠、運動と生きがいである。中でも「生きがい」は、健康で長生きするための心の持ち方であり、他の3つの要素を動かすエンジン。

日本の文化に深く根ざし、誰もが身近に感じているこの言葉をキーワードに、いまや高齢期入りした百合が丘・緑が丘地区が目指すべき将来像を提案する。参加者との話し合い。

**集まって健康と生きがいをつくる町へ**

2月22日(土) 10:00~12:00  
 集まるのはなハイジ集會室  
 講師 薮 健夫、原 大祐氏  
 (国交省調査事業コンサルタント)  
 参加無料 駐車スペース 40台  
 主催 ゲンコミ生涯学習部会 問合せ 090-8445-6947(実 かけひ)

・こうした課題に所有者・管理者と民間団体が連携協力して維持管理し、緑地に付加価値を産み出しているシモキタ園藝部の活動は大いに参考になる。

・シモキタ園藝部をモデルに同様の組織をつくり、定期的にコモンスペースの管理・整備を行うとともに、地域内外のコミュニティを巻き込みながら、定期的なワークショップや収穫祭などを開催し、地域住民に自然と触れ合う機会を提供する。

### 『提案3』 商店街・アーケードの再生 (略)

### 『提案4』 健康コモンズ事業

・健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。  
(WHO の定義)

・健康コモンズとは、健康をテーマとする活動(健康活動)によってコミュニティに誰もが使える共有空間(居場所)をつくることである。

・健康コモンズ事業はこうした理念に基づき、①協働して健康増進できるコミュニティ ②85 歳になっても介護認定を受けずに暮らせるコミュニティ ③介護認定になっても望む暮らしができるコミュニティ——の3つのコミュニティを創ることを目標とする。



### 『提案5』 高齢者等移動支援事業

・国土交通省は道路運送法等の改正などを行い、パンフレットを作成して住民などが担い手になる互助の仕組みづくりを支援している。

・特に、許可・登録不要の互助方式についてもいくつかの事業モデルが提案されている。

・その中の「事業モデル C」を下敷きにして、当該地区のモデル事業を提案する。

### 『提案6』 カフェなどの用途誘導(略)

### 『提案7』用途地域規制の緩和 (略)

### 『提案8』 元気なコミュニティ協議会の組織強化

・元気なコミュニティ協議会をこの地区及び団地のエリア・マネジメント組織に育てるには、まちづくりの活動や事業に取り組む必要があるが、現時点では十分ではない。



・健康団地 CR 部会の活動は地域のコモンズを活動の拠点として健康活動など地域の課題に挑戦する事業を進める点でまちづくり活動であり、エリア・マネジメントの要件である地域の持続的な維持保全を図る活動にも適する。

・元気なコミュニティ協議会の強化策としては、健康団地 CR 部会を中心に、更に移動支援事業、菜園・園藝事業等に展開し、地区及び団地再生を持続的に推進するための、エリア・マネジメント組織(法人化)に発展させる

ことを提案する。